

# 賛助広告ご協力企業・団体等一覧

広告サイズ	企業・団体等名称	代表者等氏名 (広告担当者)	(卒業年・科)	所 属	掲載ページ
L(h4)	カラー 鎌田工業株式会社	鎌田 満雄	(S27C)	東京秋工会	裏表紙
	カラー アイシン産業株式会社	宮川 良一	(S34M)	東京秋工会	裏表紙
L(h3)	カラー サンパウロ・ラーメン餃子専門店「あすか」	伊藤 武	(S36E)	東京秋工会 ブラジル在住	54
L	合同会社アーバン・コンサルタント	三平 俊悦	(S39A)	東京秋工会	4
	Aターンプラザ秋田	-	-	-	14
	澤木萬國特許事務所	澤木 誠一	(S26E)	東京秋工会	5
	東神興業株式会社	夏井 雅樹	(S58M)	東京秋工会	41
M	カラー 伊藤貴金属店	赤塚 京二	(S40C)	秋 田 本 部	26
	カラー 株式会社ジオ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	19
	カラー 株式会社三山コンサルタンツ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	54
	カラー テンシャル株式会社	大塚 廉造	(S32K)	東京秋工会	54
	カラー 株式会社オー・ティー・ディー・エス	田中 誠悦	(S32K)	東京秋工会	25
	カラー ランドオーナーオフィス	地主 勝己	(S37C)	東京秋工会	31
	カラー 労働安全コンサルタント	小野 鐵雄	(S38C)	東京秋工会	32
	カラー アルカディア市ヶ谷	-	-	-	18
	カラー 株式会社KM	伊藤 幹夫	(S46A)	東京秋工会	54
	カラー ブランニング&デザイン_KFワークス	船木 一美	(S48M)	東京秋工会	6
	株式会社渡辺佐文建築設計事務所	渡邊 佐文	(S25A)	秋 田 本 部	29
	富士コンサルタンツ株式会社	野呂 昭光	(S37C)	東京秋工会	30
	伊藤工業株式会社	伊藤 満	(S54C)	秋 田 本 部	38
	地鶏串焼割烹「音羽亭」	-	-	-	9
	株式会社大石建設	大石 昭彦	(ゴルフ同好会ゲスト)	-	36
	鳥海工業株式会社	小松 健	(S37M)	東京秋工会	46
	株式会社アークヴ・ラボ	船木 一美	(S48M)	東京秋工会	37
	秋田ひえばなの会(文集/首都圏在住秋田人100人の物語)	田村 輝夫	(S31鷹農農林高卒)	-	40
			(船木一美/S48M)		
	S	カラー ギタリスト 岩見谷 洋志	岩見谷 洋志	(S41E)	東京秋工会
カラー 株式会社北勢工業		太田 博之	(S56K)	秋 田 本 部	47
株式会社汎建築設計事務所		鈴木 誠一	(S38A)	秋 田 本 部	39
株式会社償 研		池田 昌憲	(S47A)	秋 田 本 部	28
彩光建設株式会社		下總 勉	(S47A)	東京秋工会	34
有限会社ワシヤプロモーション		鷲谷 透	(S56M)	東京秋工会	34
MSP	カラー 東京秋工会 ゴルフ同好会				24
	カラー 東京秋工会 写真同好会				20

以上33の企業・団体・個人・同好会の皆様からご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

## 編集後記

昨年の会報金砂24号から秋工OBが起業した会社訪問の記事にしています。昨年で紹介のアイシン産業(株)では、微細に粉にする装置が世の中になく、手作りしながら確認試作をして、最後には顧客満足できる製品が完成したこと。また今年25号の鎌田工業(株)では、無理な日程要求に対しては「不可能なことはない」の信念で、工夫で乗り越え顧客満足をしたのが成功となったと理解しました。この2社ともしっかり強みを持っており、長年会社が継続して来た理由が分かり、また敬服をしました。今後もこのOB会社訪問を継続したと考えていますので、ご期待ください。

編集長 嵯峨 良平 (S43E)

知るは楽しみなり。昔NHKの「クイズおもしろゼミナール」で鈴木健二アナウンサーが番組の冒頭で言っていた。年齢を重ねるに従い探求心が減ったとを感じるが、人に読まれる記事を書くとなるとそうも言っていられない。KANASAに土方巽(Vol23)と千葉治平(Vol24)の記事を書くための情報収集がきっかけとなり、土方巽をモデルにして世界的に評価された写真集「鎌鼬」と、田沢湖町出身の千葉治平が少年時代に深く心に刻まれた「クニマス」について興味を持った。昨年山梨県西湖畔の「クニマス展示館」と今年秋田県羽後町の「鎌鼬美術館」を訪ね、時代を超えて先輩の思いを垣間見た気がした。

副編集長 赤川 均 (S41E)

よく他校の知り合いから、金砂はすごいね・・・と言われます。評価してくれてるということでしょうかから悪い気はしないものの、すごいモノを作ってるなんていう意識はほとんどありませんからどう返事していいやらです。良いモノにしたいという意識でずっとやって来たつもりは確かにありますが、うまくいかないことも多々なわけで、結局はいつもブライマイ0な気持ちにさせられるわけです。それとSNSなど、今やネット系のペーパーレスコミュニケーションが主流の時代。紙媒体といわれるものがまったくなくなるなんてことはないでしょうが、FacebookやLINEなどをうまく活用している若い世代の様子を見るにつけ、フ〜ムと思わざるを得ません。自分らの時代で会報は・・・かな？とか思いつつも、まあ来号もがんばりますか・・・。

副編集長 船木 一美 (S48M)

### ● 今号より採用のカラーコード(表紙背部下に表示のカラーバー)について

KANASAのバックナンバーを取り揃えて本棚に並べているという方から、表紙が同系色で続いた場合、どれが何号なのか判別し難いので、何か違いを認識し易い印を入れたら、という意見があり今号より採用することとなりました。別にそんなの・・・という意見もありましたが、少しでも役に立つ機能は採用するというKANASAの基本方針の下、今号より採用の運びとなりました。カラーには0~9までの数字を割り当ててありますが、年に1度だけの発行のKANASAですので、詳細な説明は省きます。今後毎年送られていく都度に違う色が配されていきますので、ご理解いただけるものと思います。